

2019年10月29日

## 第2回基本計画専門調査会へのコメント

小林 喜光

### 第5期科学技術基本計画のレビューについて

- 第5期計画では社会像のあるべき姿（Society5.0）を提言しているが、その社会像実現に向けて、第5期計画自体が正しい方向であったのか検証しておく必要がある。第5期計画策定時に設定した目標項目および数値目標が適切なものであったのか、目標の妥当性を評価することを優先するべきではないか。
- 各項目の達成度を数値で評価することは重要ではあるが、その目標達成のために打ち出した施策が有効であったのか、各施策の妥当性まで掘り下げて評価すべきではないか。各施策の良かったところ、悪かったところを整理し、その結果を次期基本計画へ反映させることが望ましい。

### 第6期計画策定に向けて

- 第6期計画策定にあたっては、その目指す姿が、国が示している国家像と連動していなければならない。骨太の方針や統合イノベーション戦略と、第6期計画との整合性を担保する必要がある。
- また、日本として重点化すべき最先端技術として「AI技術」「バイオ技術」「量子技術」が掲げられ、それぞれの開発に向けた戦略が策定されている。またこれらの技術を活用したアプリケーションへの展開を図るためには、「デジタル基盤の整備・活用」「5G技術」などの基盤技術と組み合わせて考えることが必須となる。これら技術の進展を振り返り、強みとなる部分/強化すべき部分を整理した上で、次期計画の施策の方向性へと反映させるべきである。
- 加えて、第6期において目指す科学技術のあり方、およびそれらにより実現される新たな社会の姿を描いていく上では、自動運転や遠隔医療などの最先端ソリューションに対し、それらの実現のために必要な規制整備/緩和や倫理的側面などのELSIの観点から議論を深めることも重要となる。

以上